

作成 令和元年12月19日

摂津市議会議員 松本暁彦

令和元年第4回定例会一般質問 ～本会議2日目 令和元年12月17日～
議事録（抜粋）

6 防災サポーターの取組みと普及について

○松本議員

6 防災サポーターの取組みと普及についてですが、自民党・市民の会も推し進めた地域防災リーダー制度である防災サポーターについて、今年度からの現況をお聞かせ下さい。

○村上議長

総務部長

○井口総務部長

防災サポーター制度の現状についてのご質問にお答えいたします。

地域での防災・減災活動を牽引する人材を育成するため、新たな取り組みとして防災サポーターを募集いたしましたところ、28名の応募をいただきました。その後、養成講座として、防災サポーターの役割や本市で発生が予想されます自然災害の特徴等の講義を受講していただきました。

また、自治会、企業、学校が一堂に会して、それぞれの取り組みを発表し、東京大学 片田教授から講評と講演をいただく「防災サミット」の聴講を通じまして、より実践的な防災知識の習得に励んでいただき、7月に1期生が誕生いたしました。

現在は、さらに多くの防災事例に触れていただけるよう、職員や施設管理者を対象とした京都大学 丸山教授による風害対策研修会を聴講していただき、風害の知識の習得も図りながら、自主防災訓練への参加など、地域との連携強化に積極的に取り組んでいただいております。

○村上議長

松本議員。

○松本議員

最後に防災サポーターについてですが、現況については理解しました。防災サポーターは共助の核となる役割です。そして平時はもとより有事に活躍して頂くことが大切です。

昨年視察した岩手県宮古市では自治会の防災担当者に防災士資格を取得させ、また

宮城県仙台市は独自の地域防災リーダーを114ある連合町内会に各5名基準で取得させています。これらの理由は避難所運営には地域で信頼厚い方が必要という東日本大震災の教訓からです。

本市も有事を考慮し、地域の自主防災組織の方に一層加入してもらうことが必要ですが、どうお考えかお聞かせ下さい。

○村上議長

総務部長

○井口総務部長

災害時、防災サポーターの皆様には、地域住民の先頭に立って被害情報の収集、行政機関との連携、避難所運営の支援など、多くの役割を期待いたしております。

そのため、平時から地域の皆さんと顔の見える関係を築いて、信頼関係を結んでいただき、リーダーシップが存分に発揮できる環境を整えていくことが重要でございます。

次年度になりますが、第二期生を募集する際には、各地域で自主防災活動にご尽力をいただいている役員の皆様、とりわけ一期生が手薄な地域の役員の方々に対して、積極的に防災サポーター募集の声掛けをさせていただく予定でございます。

○村上議長

松本議員。

○松本議員

しっかりと募集して頂ければと思います。そして防災サポーターの価値は防災サポーターが一番知る。と言いますか、地域の主たる方々と一般の方々が防災サポーター同士で連携することが平時、有事ともに有効であります。制度目的を達成するようバランスを取りながら、増やされるよう要望致します。

また自助、共助の強化につながる防災サポーターの普及には、自助、共助、公助の関係について正しい理解が必要です。なぜなら市民とのやりとりの中で、三助の必要性は理解しておられるも、公助が自助・共助を包括し最後は守ってくれる。というお考えを聞く事があります。そこで大阪北部地震時の教訓も踏まえ、この三助の関係について、その担い手も含めてお聞かせ下さい。

○村上議長

総務部長

○井口総務部長

大規模な災害が発生した場合、被害を最小限にとどめるためには、自分の命は自分

で守る「自助」、地域や近隣の方が互いに協力し合う「共助」、避難所開設や人命救助など行政機関による「公助」の3つの連携が重要であります。そして、それぞれが自助、共助、公助の役割をしっかりと認識し、十分に準備を整えておく必要もございません。しかしながら、議員ご指摘の通り、公助への過度な依存が課題となっている自治体もございません。

本市は、自衛隊や警察をはじめ大阪府や防災協定市町などの公的機関、さらに関西電力や大阪ガスなどライフライン会社との連携強化に取り組んでおります。

また、災害時の物資の確保、庁内体制の整備など、公助の強化にも努めておりますが、特に大規模災害の初動期におきましては、公助の支援が十分に行き届かない場合もありますことから、自分の命は自分で守る自助、地域で支え合う共助の重要性をより一層周知して参りたいと考えております。

この点につきましては自主防災会等や出前講座などを通じまして、引き続き活動して参りたいと考えております。

○村上議長

松本議員。

○松本議員

三助について理解いたしました。大阪北部地震の際、この庁舎にも自衛隊、警察、大阪府等が集まり、市民の命を守るべく公助の役割を果たした事は記憶に残るところでございます。

市民の命を災害から守るため三助はいずれも必須で、公助強化は勿論のこと、自助・共助強化につながる防災サポーターは欠かせないと訴え普及に取り組むべきであります。

また防災士資格取得補助についての現状をお聞かせください。

○村上議長

総務部長

○井口総務部長

防災士資格の取得費補助制度につきましては、これまで自治連総会や出前講座、各自主防災訓練などの様々な機会をとらえまして、積極的に補助制度の周知を行っているところでございます。

また、日本防災士機構と連携した取り組みといたしまして、本年4月以降に防災士資格を取得された方への制度周知、また防災士機構のホームページに資格取得費の補助を行っている自治体として、本市を掲載していただいております。

その結果、市民の皆様から問い合わせが寄せられるようになり、徐々にではあります。補助制度が浸透してきたものと感じております。

現在、助成金の申請に至ったケースはわずかではございますが、引き続き補助制度の周知に努め、本市の防災力アップの一役を担っていただける人材の育成に努めて参ります。

○村上議長

松本議員

○松本議員

この制度はまさに防災サポーターのパイを広げ、自助・共助強化につながります。最後に市長も防災士の資格を取得され、率先垂範されておられますが、是非、防災サポーターの取り組みへの意気込みをお聞かせ下さい。

○村上議長

市長

○森山市長

松本議員さんの質問にお答えいたします。今日の朝の新聞に重大ニュースで、一番上がやはり年号が変わったことがあったのですが、三番目に関東での豪雨災害が記載されていたことですが、なんといっぺんに二百か所の堤防が氾濫決壊するという考えられないようなことが、起こったわけでありまして、改めて川・水・雨の怖さ、これを目の当たりに致しました。

そういうことで、何度も言っておりますけども、もう一度安全・安心についての認識を新たにしようと言っているわけでございます。色んな各地の災害を見てましても、あのような大災害が起きた時に、いわゆる行政・公助だけでは、市民の皆様を守ることとは不可能であります。

さすれば、どうすべきか、もう何度も話が出ておりますけども、やはり市民の皆さんの理解と協力、連携、これが不可欠でございます。そういうことで、自助、共助、公助、この連携で摂津市全体の防災力をアップしていく、これがいわゆる「まちごと・丸ごと防災」の由縁でございます。

防災サポーターに対するお問いでございますが、「まちごと・丸ごと防災」といってもどうして具体化するのかということになります。それを具体化していく一つの制度として設けたのが、この防災サポーター制度でございます。今、総務部長も申しましたけども、自助、共助、公助の連携、これに勝るものは無いんですけども、実際、起こった時、果たしてどう機能するのか、やっぱりコーディネートする人材、これがいなければ、なかなか形にはならないわけでございます。

本来、その役割を果たすのが、防災士の役割と明記されているところですけども、防災士につきましては、それだけのハードルを越えなくてはならないので、すぐにたくさん的人员確保というわけには参りません。それよりも身近に簡潔に代わる役割を

果たせる人材を養成しようじゃないかと、それが防災サポーター制度につながっているわけです。

この養成講座においては、自助、共助についてもしっかりと学んで頂いております。とっさの時には機能して頂けるものと思っております。今後もですね一人でも多くの皆さんにこの養成講座を受けて頂きたいと思っております。

そういうことで、いつも言っておりますが、安全・安心のまちづくりの基本中の基本でございますので、私どももさらに緊張感を持ってですね、様々な取り組みを通して、市民の皆さんと一緒に安全・安心の先進市として、なれるように取り組んで参りたいと思います。

○村上議長

松本議員

○松本議員

ありがとうございます。是非、防災の先進モデル都市ともなる本市の取組みを推進していただければと思います。

また、防災サポーターの方から避難所運営訓練モデルケースが必要との話がありました。検討して頂くよう合わせて要望致します。

(音声データ等より作成)

<その他の質問項目>

- 1 やる気スイッチ等教育施策の実践とリーダーシップについて
- 2 健都における明和池公園の価値向上について
- 3 本市に活力をもたらす中小企業の活性化について
- 4 共感を得るふるさと納税の検討状況について
- 5 防災と地域の核となる旧三宅スポーツセンターの空間価値の重要性について